

平成28年度 施策評価シート

基本目標	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	230 誰もが安全・快適に暮らし、移動できるまちをつくる
施策	231 誰もが移動しやすい交通手段を確保する
施策の目標	電車やバスなど公共交通機関を利用して、区民や来街者が区内を快適に移動できるとともに、幹線道路の整備も進み、自動車による交通渋滞も解消されるなど、移動時間も短縮され、便利なまちになっています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「区内の交通の便がよい」と思う区民の割合	%	72.0					79.0

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
道路管理延長	m	252,234	252,866	252,713	252,713	252,238
路面改修工事の施工延長	m	446	503	256	262	336
橋梁長寿命化計画に基づき補修を実施した橋梁数	橋	2	1	2	0	1

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>・路面改修事業や道路維持事業については、計画的に損傷の著しい路線から改修しているものの、老朽化や損傷度は増加傾向にあるため、事業の拡大が必要となっている。</p> <p>・新タワー周辺主要道路景観整備事業については、平成25年度に言問通りと桜橋通りの整備が完了した。タワービュー通りについては、平成27年度末で完成した。</p> <p>・平成27年度の橋梁架替・撤去事業については、菊柳橋の架替えが完了した。また、その他の老朽化橋梁については、橋梁長寿命化計画に基づき、十間橋の補修を行った。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>・道路や橋梁といった都市施設の損壊は、区民だけでなく社会生活や経済に与える影響も大きく、老朽化したインフラの再整備は、区民の安心、安全のまちづくりの観点から一層求めて行く必要があり、墨田区の大きな課題となっている。そのため、計画的な修繕・架替えを継続して進めていくことが必要と考えられる。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>・道路や橋梁といった日常生活に欠かすことのできないインフラ整備を、路面損傷度調査結果や橋梁長寿命化計画に基づき効率的かつ計画的に実施する。国や東京都の補助金を活用することによって区の財政的支出を軽減し、修繕事業のスピードアップを図りながら今後も実施する。</p>

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	曳舟たから通り整備事業		所管課・係	都市整備課都市整備担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6281
予算書名称	曳舟たから通り整備事業		執行実績報告書ページ	152

1 事業の概要

曳舟たから通り(押上通り～曳舟川通り、延長約350m)は、平成10年2月3日に都市計画決定された都市計画道路である。京成曳舟駅周辺地区におけるまちの中心軸としての機能を確保するために、道路の拡幅やゆとりある歩道の整備を行い、快適性や利便性・安全性の観点から道路機能を向上させる。現在、押上通りから約220mを街路事業で整備を進めており、残る約130mについても、再度街路事業の延伸を行い、整備する。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	平成30年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
道路利用者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
曳舟たから通りを11mから17mへ拡幅し、電線共同溝や街路樹等によるゆとりある歩道の整備	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
京成曳舟駅周辺地区におけるまちの中心軸として、快適で便利、そして安全に移動できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	用地買収	件	目標値	1	1	1
			実績値	1	0	1
成果指標 (目的に対する指標)	道路整備(電線共同溝)	m	目標値	0	85	65
			実績値	0	85	65
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・現事業認可区間(押上通りから220m区間)における用地買収は完了し、一部で電線共同溝の整備を行っている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費	
27年度 歳出予算額	609,317	27年度 歳出決算額	586,059	27年度 執行率	96.2%	28年度 歳出 予算額	87,630
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 有	都支出金 無	その他 有	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>周辺の再開発事業や鉄道立体化、押上通りの拡幅整備に合わせ、京成曳舟駅周辺地区におけるまちの中心軸として整備を進める必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>道路管理者として、都市計画事業(街路事業)を進めていくものである。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>事業の長期化を避けるため、収用制度を用いて用地取得を進めた。</p>				
(4)現状と課題	<p>・周辺事業との調整、連携が必要となる。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	継続実施することで、京成曳舟駅周辺地区のまちの中心軸としての道路整備ができる。
今後の方向性 (見直しの視点)	京成曳舟駅前広場整備や押上通りの拡幅整備等との調整を進め、曳舟川通りまでの道路整備を早期に完了させる。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	平成27年7月(都市開発・災害対策特別委員会)、平成27年第3回定例会(産業都市委員会)	
	要旨	・京成押上線高架化後のイトーヨーカドー前における歩行者横断に対する安全対策計画について	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	東墨田地区道路整備事業		所管課・係	都市整備課都市整備担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6281
予算書名称	東墨田地区の道路整備		執行実績報告書ページ	151

1 事業の概要

「環境改善計画」(東京都)に基づき、東墨田地区環境改善事業の一環として、まちづくりや住民生活の基盤となる道路整備を実施してきている。	事業開始年度	昭和60年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民等					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路の計画幅員を概ね6mとし、用地買収と道路拡幅整備					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路を安全・安心に通行できる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	用地買収率		%	目標値	/	/	/
				実績値	98	98	98
成果指標 (目的に対する指標)	未整備延長		m	目標値	/	/	/
				実績値	100	100	100
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
拡幅整備対象路線24路線のうち、境界測量24路線、道路整備20路線が完了している。一部の地権者には計画に対する強い反対があり、未施工部分の買収・整備は、地権者からの申出により協議に入ることとしている。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費	
27年度 歳出予算額	14	27年度 歳出決算額	14	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	14
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準						補助率	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
まちづくりの基盤整備として必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
一部を残し、道路拡幅整備が進んでいる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
他の道路拡幅整備事業とはスキームが異なる。地権者からの申出により協議等が始まる。				
(4)現状と課題	未整備箇所は、地権者の事業に対する強い反対があり、用地買収の同意を得ることが現在困難である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<ul style="list-style-type: none"> 地権者から申出があった際に、用地買収、道路拡幅整備を行っていく。 当該事業において、東京地区用地対策連絡協議会から用地補償等に関する最新の情報を得ており、用地買収を行う他の事業でも活用している。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も地権者の動向を注視していく。 なお、現状でも当該地区の道路ネットワークは機能している。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路管理システム整備事業		所管課・係	土木管理課 占用担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6283
予算書名称	道路管理システム維持経費		執行実績報告書ページ	148

1 事業の概要

道路工事調整業務、道路占用許可申請業務及び占用状況を管理する。 平成2年度から(一財)道路管理センターの構築・運用する「道路管理システム」を導入している。 また、平成11年度からは道路占用許可申請等をオンライン化し、日常の事務効率をより一層向上させ、かつ手作業によるミスを防止することで、事業事務の精度を高めている。	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路占用工事申請事務及び道路占用業務					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路管理システムによる道路占用許可事務に係る一連業務の電子申請・処理化					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路占用許可事務の進捗が一元的かつ正確に管理されている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路占用掘削復旧許可件数 (道路管理システム使用分のみ)		件	目標値			
				実績値	1,495	1,711	1,626
成果指標 (目的に対する指標)	年間の道路占用許可件数		件	目標値			
				実績値	2,173	2,496	2,372
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
道路占用工事申請手続きを道路管理システムを利用した電子申請にしたことで、道路占用許可の事務処理を効率よく実施でき、各企業ごとの監督事務費徴収業務を合理化している。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	7,192	27年度 歳出決算額	7,147	27年度 執行率	99.4%	28年度 歳出 予算額	4,882
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ライフライン関係工事の進捗管理を正確かつ効率的に行うために必要なシステムである。対象案件も多く、事業を休止又は中止した場合の影響は極めて大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	上昇
<p>平成27年度から電線共同溝システムの運用を開始したことで、さらに多くの案件について、正確かつ効率的な進捗管理が可能となった。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>(一財)道路管理センターが一元的に管理するシステムであるため、他のシステムとの統合や経費の低減は不可能である。</p>				
(4)現状と課題	<p>新たなシステム開発等が検討されており、今後のデータ活用方法等について関係団体と検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	窓口業務の時間短縮や申請書類の簡素化等を図りながら継続する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	残置物管理システムの開発やシステムデータの活用方法の検討を進めており、業務の効率化や蓄積データの活用方策を検討する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	道路台帳整備事業		所管課・係	土木管理課土木管理担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6280
予算書名称	道路台帳整備費		執行実績報告書ページ	149

1 事業の概要

道路法に基づき、道路台帳の管理及び調製のため、平面図や調書を補正し、区民に閲覧サービスを行う。 なお、昭和39年度に第一次道路台帳整備事業、昭和47年度に第二次道路台帳整備事業を行い、平成10年度からパソコン入力・出力、申請者への端末画面による閲覧システムを開始、平成14年度から各台帳関係資料の複写・証明の交付事務を開始している。	事業開始年度	昭和39年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
[道路台帳整備]道路台帳 [道路台帳の閲覧]道路台帳に関する情報の閲覧、複写・証明の交付申請者等の利用者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
[道路台帳整備]業者委託及び担当職員によって、道路台帳の補正 [道路台帳の閲覧]道路台帳に係る情報の閲覧、複写・証明サービスの提供	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
[道路台帳整備] 道路の認定、廃止、区域変更等により形状や数値が変化した箇所が、遅滞なく正確に補正された道路台帳が調製されている [道路台帳の閲覧] 利用者が用途に応じて、道路台帳に関する必要な情報提供を受けられる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路台帳現況図等の閲覧・複写交付・証明交付等窓口申請件数	件	目標値			
			実績値	10,292	9,129	9,743
成果指標 (目的に対する指標)	台帳補正箇所数 (区間、面積、幅員等補正箇所)	件	目標値			
			実績値	744	578	411

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成25年度から、「道路台帳現況図」のウェブ閲覧システムの利用を開始したことにより、窓口での閲覧件数や複写交付が年間約500件減り、一定の業務を削減することができた。
一方で、道路台帳は幅広く利用することから、最新のデータを保つことが必要となっている。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路橋梁総務費	
27年度歳出予算額	9,053	27年度歳出決算額	8,199	27年度執行率	90.6%	28年度歳出予算額	
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	有	無		7,804	
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	手数料			収入額	1,819
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		無					
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
住宅建設や開発等により、需要が変わるが、道路法に基づく事業であり、休止又は中止することはできない。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
インターネットでの閲覧を開始したことで、窓口での受付件数は横ばいとなっている。 当区の台帳補正業務に精通した事業者に委託するとともに、迅速な修正が必要な箇所や軽微な変更については、担当職員が即時に修正することで、正確かつ迅速な台帳補正を行っている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
道路台帳の整備・管理は、道路管理者固有の権限であるため、関連・類似事業との統合はできない。 台帳補正に係る経費は、道路区域の変更箇所数等によるが、おおむね横ばいである。				
(4)現状と課題	「道路台帳現況図」をウェブ上で提供したことにより、情報の拡充や、利用者側の多様なインターネット環境に対応して、ウェブ閲覧システムを安定的に提供していくことが課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	道路管理者として、早期に道路台帳を整備することで、利用者に対し、継続的で、利便性の高い情報提供を行っていく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	道路管理者として、管理道路に関する情報について、ウェブを活用しつつ、迅速かつ正確な資料として、安定して提供できるようシステム環境を整え、利用者の利便性向上を図っていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路工事調整協議会事務		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6283
予算書名称	道路台帳整備費		執行実績報告書ページ	149

1 事業の概要

道路占用工事の適正化、保全対策等の周知を図るため、各関係機関との連絡調整を行う。	事業開始年度	昭和49年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
道路内に設置するライフライン等の占用企業者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
企業間で競合する工事を総合調整する会議の定例又は個別の開催	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
道路施設の保全や占用許可手続きが適正に行われた工事について円滑に施工されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	調整会議の開催数(定例+個別)	回	目標値	6	6	6
			実績値	6	6	6
成果指標 (目的に対する指標)	競合箇所の調整件数	件	目標値			
			実績値	55	45	33
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
2か月毎の調整会議を各関係機関と行うことで、工事調整を円滑に行うことができる。 なお、占用許可申請手続きを電子化したことで、事務処理の効率化が図られている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費
27年度 歳出予算額	72	27年度 歳出決算額	50	27年度 執行率	69.4%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>良好な道路環境を維持するために、企業が実施する工事の調整を行う本協議会は必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>占用企業者間の情報共有を図り、計画的、効率的に工事調整を行うために有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>他に類似の事業はないため、統合等は不可能である。</p>				
(4)現状と課題	<p>企業者間調整について、定例会の開催には限界があるため、個別の調整会議を開催して対応しているが、より効率的な調整方法等を検討していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	本協議会は、本区の道路行政にとって重要な役割を担っているため、必要な事務改善を図りながら維持する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	道路工事は、年々増加傾向にあることから各企業者の連携と良好な道路環境を維持するため、本協議会が果たす役割を強化する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路占用許可事務		gatu	土木管理課占用担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6283
予算書名称	道路、河川及び公園占用許可事務費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

区が管理している道路等において、道路法、墨田区道路占用規則等の関係法令に基づいて道路占用許可を行い、道路管理の適正化を図る。	事業開始年度	昭和28年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路占用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路関係法令に基づく各種申請への適正な処理や、違法に占用又は使用している者への是正指導					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路本体の機能を損なうことなく、占用者が適正に利用している					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路占用許可件数		件	目標値			
				実績値	803	785	746
成果指標 (目的に対する指標)	道路禁止行為注意指導件数		件	目標値			
				実績値	270	177	144
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
申請事務の電子化により、事務処理の効率化が図られてきた。しかし、違反物件の取り締まりの内容には、悪質なケースが増加しており、法的な対応が必要となっている。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	733	27年度 歳出決算額	537	27年度 執行率	73.3%	28年度 歳出 予算額	1,448
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	道路占用料			収入額	993,001
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ライフラインを含め、各種物件の道路占用許可は道路管理者として適正な管理を行うために必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>違反物件に係る陳情案件が増加しており、注意指導を強化している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>道路法に基づく許可事務であり、統合することは困難である。また、占用料等の受益者負担については、現在特別区による統一基準を使用している。</p>				
(4)現状と課題	<p>区民や占有者に対し道路占用について理解が得られるよう努めるとともに、不法占用事案については是正指導を続け、改善するよう努力する。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	新しい区民の増加により、新たな視点での道路監察に対する関心が高まっている。
今後の方向性 (見直しの視点)	監察指導事務体制の改善を図り、効率的で迅速な対応を行う。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路占用掘削復旧許可事業		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6283
予算書名称	道路、河川及び公園占用許可事務費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

道路法、墨田区道路占用規則及び墨田区道路占用工事要綱に基づき、道路占用掘削復旧の許可及び指導監督を行い、道路管理の適正化を図る。	事業開始年度	昭和29年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路区域内に地下埋設占用するライフライン等の占用企業者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
適正な占用許可手続きと、その後の復旧方法等の協議や現地立会い					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
ライフライン等の占用物件設置または撤去工事後の状態を一般通行に支障のない良好な					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路占用掘削復旧許可件数 (道路管理システム分+自費工事分)		件	目標値			
				実績値	2,112	1,918	1,851
成果指標 (目的に対する指標)	道路復旧立会い件数 (小規模工事を除く)		件	目標値			
				実績値	355	301	334
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
・復旧許可件数は減少傾向であるが、立会い件数はほぼ横ばいである。 ・各企業との占用工事や撤去工事、道路復旧工事の立会い等は、安全を第一と考え、道路施設を良好な状態に復旧するよう指導している。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	28	27年度 歳出決算額	19	27年度 執行率	67.9%	28年度 歳出 予算額	38
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
道路施設を良好な状態に保つことは、道路環境の安心・安全確保に必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
申請に基づき、1件ごとに職員が現地の状況を確認して判断するため効果的である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
他事業との統合は不可能だが、監督事務費の徴収業務は改善が図られている。				
(4)現状と課題	ライフライン等の大規模改修による道路復旧工事が増加しているため、対応できる体制づくりが必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	業務量の増加に対応できる体制づくりや占用企業者、民間工事業者等への指導監督を強化していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	道路施設を良好な状態に保つため、指導監督を強化していく一方、道路構造基準の見直しや監督事務費の改正等を実施し、良好な道路構造の保全に努める。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	区有通路設置事業		所管課・係	土木管理課用地調査担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6285
予算書名称	区有通路設置経費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

墨田区有通路条例に基づき、将来特別区道となり得る私道で、幅員2.7m以上あるものについて、区が所有権を取得し、議会の議決を得て設置する。	事業開始年度	昭和44年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区有通路を設置希望する私道の土地及び土地所有者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
権利関係の整理(土地の測量、筆界確認など)を前提とした土地の寄付の相談受付等					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
私人が所有及び維持管理していた私道を、区有通路として区が所有及び維持管理している					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	相談件数		路線	目標値			
				実績値	1	1	1
成果指標 (目的に対する指標)	設置件数		路線	目標値			
				実績値	0	0	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
私道所有者から相談があり、設置基準を満たしたうえで議会の議決を得る必要があるため、ここ数年は設置実績はない。しかし、現在2件の相談があり、相談者は、設置条件を満たし次第、寄付手続きを行いたいとの意向である。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路橋梁総務費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率		28年度 歳出 予算額	500
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>本事業は、私道所有者が対象であるため、ニーズは決して多くはないが、今後も相続等により私道の管理に関する相談が考えられるため、必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>今後も相談件数は横ばいと想定されるが、本事業の実施で、関係資料等の作成する時間を短縮することができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>相談はあるものの、設置まで至っていないため、事業経費は横ばいである。</p>				
(4)現状と課題	<p>区有通路を設置するには、区有通路条例の設置基準を満たすこと、また、必要な資料を添えて寄付の申し出をすることを私道所有者に理解してもらう必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	私道所有者から寄付の相談があった際に、速やかに調査、測量を行う必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	私道所有者から寄付の相談があったときに、速やかに対応できる体制を整えておく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	法定外公共物・法定公共物移管事業		所管課・係	土木管理課用地調査担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6285
予算書名称	公共物移管事業費		執行実績報告書ページ	149

1 事業の概要

平成11年に地方分権一括法が成立し、平成14年度に国から法定・法定外公共物の譲与を受けている。この譲与を受けた法定・法定外公共物の中の無地番地については、境界確定や地籍調査が終了次第、表題登記及び所有権保存登記を区が行う。 なお、平成14年度以前は、法定・法定外公共物は国有地であったため、東京都が国有財産法に基づき境界確定事務を行い、区は区道管理者として資料提供や現地立会いを行っていた。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
国から譲与を受けた法定・法定外公共物					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
土地表題登記及び所有権保存登記					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
無地番の法定・法定外公共物が第三者への対抗要件を備えている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	境界確定・確認延長 地籍調査実施面積		m km ²	目標値			
				実績値	3070 / 0.49	2807 / 0.40	1913 / 0.20
成果指標 (目的に対する指標)	登記筆数		筆	目標値			
				実績値	13	2	5
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
境界確定または地籍調査での筆界確認が完了した土地から登記している。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路橋梁総務費	
27年度 歳出予算額	5,090	27年度 歳出決算額	4,856	27年度 執行率	95.4%	28年度 歳出 予算額	4,425
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>平成14年に国から譲与を受けた土地の多くは、無地番地であったため、今後も登記ができる土地については、随時登記を行っていく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>登記資料を作成するのに、土地の形状等の影響があるので、年間の登記数は、年度によって異なる。境界確定等が完了した土地については、登記を行っていくことで、第三者への対抗要件が備わることになる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>本事業と関連する事業はなく、事業経費は横ばいである。</p>				
(4)現状と課題	<p>土地表題登記は、登記を行う土地に接する全ての筆界が確認されていないと行えないため、境界確定または地籍調査の筆界確認が完了しなければならない。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	境界確定や地籍調査により、筆界確認がなされた法定・法定外公共物について、第三者への対抗要件を備えておく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	境界確定や地籍調査が完了した箇所、登記が可能な法定・法定外公共物について、速やかに登記を行っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	公共用地境界確定事業		所管課・係	土木管理課用地調査担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6284
予算書名称	公共用地境界確定事業費		執行実績報告書ページ	149

1 事業の概要

平成11年に地方分権一括法が成立し、平成14年度に国から法定・法定外公共物の譲与を受けたことに伴い、都市整備部が所管する道路、公園等の区有地の境界確定・確認、及び墨田区が管理している道路区域の確認を隣接土地所有者、公共物管理者等の申請に基づき行う。なお、平成14年度以前は、東京都が境界確定事務を行っており、区は区道管理者として資料提供や現地立会いを行っていた。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
都市整備部が所管する区有地	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
隣接する土地所有からの申請により境界確定協議等	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区有地の財産管理範囲を明確とする	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	申請件数	件	目標値			
			実績値	190	131	117
成果指標 (目的に対する指標)	確定・確認延長	m	目標値			
			実績値	3,070	2,807	1,913
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
申請主義であるため、申請件数は景気の動向に左右されやすい。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路橋梁総務費	
27年度 歳出予算額	1,257	27年度 歳出決算額	1,053	27年度 執行率	83.8%	28年度 歳出 予算額	1,242
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
境界確定は、不動産取引と密接に関係するため、景気の影響を受けやすい。近年の申請件数は、横ばいであるが、今後も本事業の必要性はある。 本事業を実施することは、財産の管理区域が明確となるため、境界トラブルを防ぐことになる。そのため、本事業を休止又は中止することは難しい。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指標の実績値は、年度によって増減はあるが、境界確定の完了箇所は増えており、今後も同様と想定される。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
効率的な執行に努めた結果、事業経費は横ばいである。				
(4)現状と課題	境界確定が完了している箇所でも、昭和の時代に確定されたものは、確定から20年以上経過しているため、現地の地物等が発見できず、境界線を復元することが困難となることがある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	境界確定協議は、主に区有地に隣接する土地所有者からの申請であり、区も体制を整えておく必要があるため、現状のまま継続する。
今後の方向性 (見直しの視点)	担当職員には、関係法令や測量に関する知識が求められるので、これらの知識を高める職員育成を行っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	突き出し看板適正化推進事業		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6283
予算書名称	突き出し看板適正化推進事業		執行実績報告書ページ	148

1 事業の概要

突き出し看板の道路占用は、平成13年度に実施した実態調査に基づき許可手続を行っているが、その後建物の建替えや看板の撤去などに伴う変更が確認できず、現在、許可件数と実態との整合性が取れていない状況である。そのため、最新の实態を調査し現状に即した許可申請及び是正指導をするため、区内を4地区に分割し4年間で順次調査を実施する。	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	平成30年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路占用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
実態調査に基づく道路占用許可申請の勧奨及び不適合物件の是正指導					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路本体の機能を損なうことなく、占用者が適正に利用している					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	調査前地区台帳数(両国駅周辺地区)		件	目標値			
				実績値			1,526
成果指標 (目的に対する指標)	調査後地区台帳数(両国駅周辺地区)		件	目標値			
				実績値			1,189
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
調査結果に基づき、看板の持ち主に区道上に突き出している看板には道路占用許可が必要なことを通知し、適合未申請物件には申請勧奨を行う。また、基準に不適合な物件には設置基準に合わせた看板となるよう是正指導を行っている。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度歳出予算額	7,174	27年度歳出決算額	7,069	27年度執行率	98.5%	28年度歳出予算額	9,151
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	ない
<p>道路上空を占有している看板等を把握するためには、看板等の実態調査を行い、最新の台帳に基づいて、全ての占有者から占有料を徴収する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	ない
<p>調査結果に基づき、新たに把握した看板等の設置者に対して申請の勧奨を行い、申請数が増加した。また、設置基準に適合していない物件の設置者に対する是正指導の結果、撤去や是正が行われている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	
<p>申請勧奨による申請数増加に伴い、道路占有料も増加している。</p>				
(4)現状と課題	<p>申請勧奨及び是正指導に応じない設置者に対する指導の強化が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	看板等の設置者に適正に占有申請を行わせるために必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	最新の看板等の設置状況を把握するために、実態調査を継続する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	一般交通量調査		所管課・係	土木管理課土木管理担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6280
予算書名称	一般交通量調査費		執行実績報告書ページ	149

1 事業の概要

区内の主要な区道の交通量を調査することにより経年による交通量の変化を把握し、区道の改良計画、道路に係る各種協議の基礎資料とする。	事業開始年度	昭和58年度
	終了予定年度	なし(5年に1度実施)

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路管理者や車両等の交通量を用いて各種施策を実施する部局					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
調査地点を通過する歩行者、自転車、自動車を方向別・車種別・時間帯別にカウンターを使用した観測と分析					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路改良計画、維持補修計画及び道路に係る各種協議を円滑かつ効果的に推進するための基礎資料を所有し、有効に活用できる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	主要な区道の交通量調査		箇所	目標値			44
				実績値			44
成果指標 (目的に対する指標)	一般交通量調査表		冊	目標値			22
				実績値			22
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
経年による主要な区道の交通量を把握することにより、道路改良計画、維持補修、その他の管理をより効率的に行っている。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路橋梁総務費	
27年度 歳出予算額	4,301	27年度 歳出決算額	4,212	27年度 執行率	97.9%	28年度 歳出 予算額	なし
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	ない
墨田区の主要な区道の交通量の変化を把握できる基礎資料として、各種設計や協議を円滑に進めるために必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	ない
継続している固定点(39点)と調査時点での必要性を考慮して選定した移動点(5点)を調査することで、有用性を高めている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	
定期的・継続的な交通量調査は、他に行っていない。				
(4)現状と課題	関係部署と調整し、道路の維持管理以外にもより活用できるような観測点の配置や成果品の作成が求められる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	交通量の経年変化を把握する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	5年毎の調査であるため、調査の内容や方法等については、調査実施時に検討する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	道路維持事業費		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6295
予算書名称	道路維持事業費、道路清掃費		執行実績報告書ページ	150

1 事業の概要

区道において、維持補修工事、清掃及び不法投棄処理等を適時、適正に実施している。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区道の通行者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路補修工事や清掃					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
道路を安全性及び快適性が保たれた良好な					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路維持補修件数		件	目標値	190	190	190
				実績値	199	186	206
成果指標 (目的に対する指標)	「交通の安全性」がよいと思う割合(肯定的評価) (墨田区住民意識調査より)		%	目標値		25.0	
				実績値		23.1	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
道路管理面積は年々増加しているが、経年的な道路施設の老朽化が進んできているのが現状である。 日常の点検や区民陳情で要望のあった箇所に対し、迅速な対応を行い、安全で快適な道路になるように維持管理を行う。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路維持費	
27年度 歳出予算額	358,609	27年度 歳出決算額	352,292	27年度 執行率	98.2%	28年度 歳出 予算額	363,592
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ニーズは増大。中止及び休止の影響は大きい。 安全に通行できる状態を継続的に維持する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標は向上。 事業実施後は通行者の安全及び快適性が向上するため有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業は無い。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 道路は不特定多数が通行するため受益者負担はなじまない。 事業は各内容に応じて専門業者へ工事及び委託を実施していることより効率的であると言える。</p>				
(4)現状と課題	<p>損傷箇所については日常の点検を通じて適時補修工事を実施しているものの、区民からの補修要望は増加している。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>事業の必要性を重視。道路の安全点検に基づき、区民から苦情が寄せられる前に補修する予防的工事を実施することで工事費の縮減に努める。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>陳情要望に対応する小規模な補修工事を施工しつつ、計画的かつ路線毎に大規模に改修する工事(路面改修工事)へ重点的にシフトする必要がある。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	路面改修事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	道路改良費		執行実績報告書ページ	151

1 事業の概要

施工年度が古く、面的に傷んだ道路を損傷度の高い箇所から順次改修している。なお、工事箇所の選定にあたっては、5年に1度の全路線目視点検により最新の路面損傷度を判定し、改修計画を策定している。 平成22年度 路面損傷度調査 平成23年度 2路線整備完了(446m、6520㎡) 平成24年度 4路線整備完了(503m、2794㎡) 平成25年度 2路線整備完了(256m、1902㎡) 平成26年度 2路線整備完了(262m、1484㎡) 平成27年度 2路線整備完了(336m、2127㎡)、路面損傷度調査(道路ストック総点検)	事業開始年度	昭和28年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
歩行者、自転車、通行車両	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
5年毎に実施する路面損傷度調査結果に基づき、損傷が著しい路線から優先的に路面を健全な状態にする改修工事	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
道路の凹凸や損傷がなく、騒音・振動が低減され、歩行者、自転車、車両が快適、安全に通行できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	H22年策定路面改修事業計画に基づく路面改修延長	m	目標値	1,380	1,380	1,380
			実績値	256.6	262.0	333.6
成果指標 (目的に対する指標)	道路・交通体系の整備を「不満」または「やや不満」と答えた割合 (墨田区住民意識調査 区政全般)	%	目標値	-	40.0	-
			実績値	-	19.5	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
現在、損傷度が高い(損傷が著しい)路線を順次改修しているが、年間目標である1,380mが実施できていない。また、現在損傷が見られない路面も経年により劣化していくことを考慮すると、改修が追いつくように事業を拡充していかなければならない。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費	
27年度歳出予算額	37,000	27年度歳出決算額	36,986	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	64,640
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ニーズは横ばい。 歩行者、自転車、車両等が快適、安全に通行できる状態を継続的に維持管理する必要があり、休止又は中止した場合は損傷度の高い道路が改修されず増えるため影響が大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指数実測値はほぼ計画通り。 路面損傷度ランクに従い事業を実施しているが、対象箇所は経費を上回る勢いで毎年常に増加する。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業、受益者負担は無い。事業経費は実施箇所数によって変化する。 企業者が行う工事と重複しないように密に調整を行うことで、より効率的に事業目的を達成できる。</p>				
(4)現状と課題	<p>経年により路面状況が劣化していく中で、損傷度の高い箇所については早期に改善しなければならない。近年、増加傾向にある企業者道路工事との調整を図る必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>事業の有効性を重視。 毎年目標値に達成できおらず、今後も事業の効率性をより一層考慮したうえで、損傷の著しい路線を早期に改修していく必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>スカイツリーの開業やオリンピックの開催地決定に伴い、観光客・車両等の増加が予想される。 さらに、経年劣化に伴う損傷が進んでいることから、現在、目標値は達成できているが、事業の効率性をより重要視し、他の道路事業や企業者工事と調整を図ることで、快適・安全な道路環境の整備を進めていく必要がある。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	橋梁の架替・撤去事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	橋梁の架替・撤去事業費		執行実績報告書ページ	151

1 事業の概要

平成22年度に新たに策定した墨田区橋梁長寿命化修繕計画に基づき、老朽化した橋梁を架替えて道路環境を改善する。 菊柳橋（平成24～27年度） 南辻橋（平成27～33年度予定） 西豎川橋（平成30～35年度予定） 新辻橋（平成32～35年度予定） 松本橋（平成33～37年度予定）	事業開始年度	昭和28年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	歩行者、自転車、通行車両	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	架替え計画の優先度の高い橋梁から架替えまたは撤去・道路築造	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	安全で快適な通行を確保するとともに、災害時も安全に避難することができる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	墨田区橋梁長寿命化修繕計画に基づく架替橋梁数	橋	目標値	0	0	1
			実績値	0	0	1
成果指標 (目的に対する指標)	「区内の交通の便がよい」と思う区民の割合 (墨田区基本計画より)	%	目標値	-	-	72.0
			実績値	-	-	71.7

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成24年度から平成27年度にかけて菊柳橋の架替えを行った。平成29年度から南辻橋の架替えに着手する予定である。橋梁の架替・撤去は工事期間が長く、費用もかかるが、架設後85年を経過した橋梁もあり、着実な事業の執行が必要である。架替えまたは撤去・道路築造を着実に実施するとともに、架替えペースを上げていく必要がある。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費
27年度 歳出予算額	323,637	27年度 歳出決算額	322,321	27年度 執行率	99.6%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 有	都支出金 無	その他 有	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>一般的な橋の寿命が50年といわれているなか、架設後85年を経過した橋梁もあり、早期に架替え事業を進めていく必要性は非常に高い。また、架替えによる耐震性などの防災機能の向上が見込めることから、近年の区民の関心が高まりつつある防災面においても必要性が高く、休止または中止した場合の影響は大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標実績値は計画通り。 架替えを行うことで、橋梁の耐震性の向上や、道路が広くなること、また、バリアフリーの視点で勾配等を再考できることから、近年の区民ニーズを満足する点が多く、有効性は上昇傾向と言える。 事後保全型の維持管理から予防保全型への移行と費用の平準化を図ることを目的に、平成22年度に墨田区橋梁長寿命化計画を策定し架替えや修繕を進めている。また、平成26年度から5年に一度の近接目視を基本とする道路ストック総点検を実施しており、橋梁の修繕が必要箇所や適切な修繕方法の検討も進めながら効率化を図っている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連事業、受益者負担は無い。 架替えには数年の時間を有するため効率性は低い。しかし、工期短縮を行うために工夫した工法及び工程計画を立案し効率性の向上を図っている。</p>				
(4)現状と課題	<p>架替えを行うために費用と時間がかかるが、現状の区内の橋梁の老朽化状況から、同時に2橋の架替えを行うなど、費用の確保と住民理解を得ながら事業のペースアップを図る必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>事業の必要性を重視。 橋梁の健全度が低く、架設後85年を経過した橋梁に対しては修繕よりも架替えが効率的と判断されており、橋の安全性確保のためにも架替えサイクルのスピードアップが必要である。 平成29年度から南辻橋の架替えに着手する予定であるが、1橋あたりの架替えに要する時間が長いとため、2橋の同時着手などの対応が必要である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>事業の進捗にあわせ、定期的な橋梁長寿命化計画の見直しによる架替え計画の修正が必要である。事業費については、国庫補助等を有効に活用し実施する。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年6月 第2回定例会	
	要旨	橋梁の老朽化について	

事務事業名	道路景観整備事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	道路景観整備事業費 東京オリンピック・パラリンピック競技会場周辺道路景観整備事業		執行実績報告書ページ	151・152

1 事業の概要

電線類を地中化することにより震災時の電柱倒壊を予防するなどの都市防災機能が強化され、架空線が無くなることにより道路景観が向上することができる。 また、電線類地中化整備に合わせて歩道のバリアフリー化を進め、安心・安全で誰もが移動しやすい道路空間を構築する事業である。 【言問通り・桜橋通り】平成19年度～25年度 【タワービュー通り】平成20年度～27年度 【両国地区 墨6、7、10、106号路線】平成27年度～31年度	事業開始年度	平成19年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか	
通行する区民、沿道住民及び東京スカイツリーや両国地区の観光を楽しむ観光客	に対して
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
歩行者空間の快適性を高めるため、電線類を地中化するとともに、歩道のカラー化、バリアフリー化、デザイン照明灯への取り換え工事	を実施したことで
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか	
東京スカイツリーや両国周辺の主要道路を安全快適なまち歩き観光や良好な景観を楽しめる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路景観整備延長 (総延長:2400m)	m	目標値	1,700		700
			実績値	1,700		700
成果指標 (目的に対する指標)	「区内の交通の便がよい」と思う区民の割合 (墨田区住民意識調査)	%	目標値			72.0
			実績値			71.7

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成19年度の道路景観整備事業開始から電線共同溝工事、道路景観工事を計画的に進め、平成25年度には3路線(言問通り、桜橋通り、タワービュー通り)で1,140mの整備が完了した。また、平成27年度にはタワービュー通りの整備が完了し、スカイツリー周辺の歩行者空間の快適性が高まり、交通環境は改善された。
 平成27年度は両国地区主要4路線の電線類地中化の予備設計を実施したことで、景観整備延長を伸ばす第一歩を踏み出した。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費
27年度 歳出予算額	410,351	27年度 歳出決算額	357,970	27年度 執行率	87.2%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	有	有	無	有		28,819
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	高い
<p>電線類の地中化は、防災力向上を求めることから社会的要請となっており、道路のバリアフリー化は高齢者、障害者を含む全ての人が安全・安心して道路を通行するために必要な施策であり、休止または中止した場合の影響は大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標値の実績値は目標値をほぼ満たす結果となった。 電線類を地中化することで震災時の電柱倒壊がなくなり、まちの防災力が向上し、バリアフリー化することで通行のしやすさが向上から今後も有効性の高い事業である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>類似事業、受益者負担は無い。 電線類の地中化により、まちの防災力が上がることは、まちの価値や通行のしやすさが向上するので推進すべきことだが、電線共同溝の整備は地中埋設物の移設が伴い、その費用を含めると事業費は高額なものとなる。 また、電線類の工事は各事業者が個別に実施し、すべてが完了後に景観整備を行うため沿道住民が長期に渡り利用の制限を強いられる。</p>				
(4)現状と課題	<p>電線類地中化に関連する電力、通信事業者と連携を図って、密に工程を調整する必要がある。 事業中は、道路工事が長期に渡るため、より一層の安全対策が求められる。 また、地中化に伴い道路上に電線管理者が地上機を設置しなければならないが、設置位置について、沿道住民と円滑に調整を進める必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。 電線類地中化やバリアフリー化を実施することで、都市防災機能の強化や安全・安心な歩行空間の確保が引き続き求められている。 関係する企業者との更なる連携を図り、新技術を積極的に取り入れながら円滑に事業を実施し、計画どおり事業を進める。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>見番通り及び桜橋通りの未整備区間(水戸街道より北側の部分)において、地域の特色を活かしたまちなみ創出に資する整備を検討する必要がある。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	橋梁維持事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6295
予算書名称	橋梁維持費		執行実績報告書ページ	152

1 事業の概要

区管理の橋梁における老朽化による損傷個所で、緊急に簡易補修が必要な場合に対応する事業である。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
通行者					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
橋梁の損傷部分に、簡易な補修					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
橋梁の安全性を確保する					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	補修した橋梁数			橋	目標値	1	1	1
					実績値	2	1	2
成果指標 (目的に対する指標)	「交通の安全性」がよいと思う割合 (墨田区住民意識調査より)			%	目標値		25.0	
					実績値		23.1	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
緊急的な措置として損傷部分の簡易補修を行い、安全性の確保を行っているが、区内には老朽化した橋梁が多いため、定期的な点検と併せて迅速な対応を図っていく必要がある。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	橋梁維持費	
27年度 歳出予算額	4,960	27年度 歳出決算額	4,859	27年度 執行率	98.0%	28年度 歳出 予算額	1,000
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>ニーズは横ばい、中止及び休止の影響は大きい。通行者の安全を確保するため必要な事業である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標は横ばい。当面の安全性を確保するには効果的な方法であり有効性は概ね適切である。本質的には、墨田区橋梁長寿命化修繕計画に基づく架替え及び修繕が必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>類似事業は無い。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。計画的な修繕との組み合わせにより、事業は効率よく推進している。</p>				
(4)現状と課題	<p>区内には老朽化した橋梁が多いため、危険な事態を招かないよう定期的な点検と合わせ、墨田区橋梁長寿命化修繕計画に基づく架替え、修繕のスピードアップが必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。計画的な架替えまたは撤去・道路築造や長寿命化修繕によらず、緊急的な対応が必要となったときには、安全性を確保するため簡易な補修工事が必要なため、引き続き事業を継続する必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>緊急的な対応のため、引き続き事業の継続は必要である。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	橋梁維持事業(落橋防止システム設置)		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	橋梁長寿命化事業費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

災害時における第三者被害を防止しすることを目的とし、平成7年以降の道路橋示方書に基づく落橋防止システム装置を橋梁に取り付ける事業である。 平成20年度 錦糸橋(設置工事) 平成23年度 東武橋(設置工事) 平成24年度 西十間橋(実施設計、設置工事) 平成25年度 新竪川橋(実施設計) 平成27年度 十間橋(実施工事)	事業開始年度	平成20年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
歩行者、自転車、通行車両	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
橋台・橋脚と橋桁をつなぐ落橋防止システムの設置	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
道路やライフラインの遮断による被害の拡大を防ぎ、住民の生命や財産を維持する	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	落橋防止システムの設置が完了した橋梁 (架替え対象を除く12橋に設置予定)	橋	目標値	0	1	1
			実績値	0	0	1
成果指標 (目的に対する指標)	「区内の交通の便がよい」と思う区民の割合 (墨田区基本計画)	%	目標値			72
			実績値			71.7
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
計画的に落橋防止システムを設置したことで震災時の第三者被害を防止するための対応が進んだ。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	橋梁維持費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	#DIV/0!	28年度 歳出 予算額	11,000
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 有	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ニーズは横ばい。中止及び休止の影響は大きい。 震災時の安全や避難路確保のために区が迅速に事業を実施することで震災時の人的被害を低減することができるため、必要性が高い。 必要性の高い事業であるため、今後も計画的に進める必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標実数値はほぼ計画どおり。 落橋防止システムの設置が進み、震災時に橋梁での人的被害を引き起こす可能性の減少に有効である。 今後は長寿命化事業等との調整を図り、費用対効果の高い執行が求められる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 長寿命化事業等と統合することで、経費の削減及び工期短縮を反映した、より効率的な施工が図れる可能性がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>交通量の多い橋梁については、下部工の補強も含めた耐震化を行い、橋梁本体の耐震性能を向上させる必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	縮小・統合	判定理由	<p>事業の効率性を重視。橋梁の維持管理については、平時の安全性や橋梁本体の長寿命化、また、震災時の落橋防止が大切である一方、安定した財源確保も重要である。 長寿命化修繕事業との同時施工によって、経費削減や地域の利用制限の負担軽減も図れることから、「橋梁維持・耐震化事業」へと統合して事業を進める必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>5年に一度の定期点検(道路ストック総点検)の結果により健全度の低下している橋梁については、震災時においても落橋の恐れがある。 「橋梁維持・耐震化事業」への統合し、長寿命化修繕工事と同時に落橋防止システムの設置するよう順位も見直しを行い、区の財政支出を軽減しつつ、より安全で安心な橋梁の維持管理を行っていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年 第2回定例会	
	要旨	老朽化した橋梁への対策について	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	橋梁維持事業(長寿命化)		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	橋梁長寿命化事業費		執行実績報告書ページ	152

1 事業の概要

墨田区においては計画的な補修を行っていたが、平成21年当時管理する26橋中75年を越える橋梁が10橋も有る事から、集中的な架替えが生じないように従来の事後的な修繕や架替えから予防的な修繕に転換し、橋梁を出来る限り長寿命化させながら架替え時期をずらして費用の平準化を図っていくことを目的に「墨田区橋梁長寿命化修繕計画」を策定した。 本事業については、この計画に基づき大規模修繕を行う事業である。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
歩行者、自転車、通行車両					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
計画的に予防保全型補修(主に主桁、床板、下部工、支承、高欄、地覆、舗装、伸縮装置、塗装)					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
橋梁が安全に通行できる					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	予防的な修繕工事を実施した橋梁 (架替え対象を除く18橋)			橋	目標値	1	1	1
					実績値	0	0	1
成果指標 (目的に対する指標)	交通の安全性がよいと思う割合 (墨田区住民意識調査)			%	目標値	-	25	-
					実績値	-	23.1	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
墨田区橋梁長寿命化修繕計画に基づき着実に予防的な修繕を実施してきたが、区内には依然として老朽化した橋梁が複数存在するため、今後も迅速に修繕を行う必要がある。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	橋梁維持費	
27年度歳出予算額	129,000	27年度歳出決算額	128,735	27年度執行率	99.8%	28年度歳出予算額	11,000
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	有	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>道路施設の老朽化が全国的な社会問題となっており、道路施設の中でも特に老朽化が進んでいる橋梁について、適切な修繕を進めていかなければ重大事象となる。このことから早期に修繕し、安全を確保することは、道路管理者としての強い責務である。また、事業を休止・中止した場合、老朽化した橋梁がますます増加し、重大な事故を引き起こす可能性が高まることから必要性は高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標実数値は計画どおり。老朽化した橋梁の修繕が集中しないように維持経費を平準化し、事後修繕から予防修繕を行う長寿命化型の維持管理方法へと転換することを目的に橋梁長寿命化計画を策定した。 この計画に基づく修繕を実施することで安全・安心な橋梁として計画的に維持管理しているため有効性は概ね適切である。 また国庫補助金の活用により区の財政負担を軽減させている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	低い
<p>受益者負担は非該当。橋梁維持事業(落防)も、本事業に合わせて実施したため、経費率の軽減、共通仮設費の削減など、事業費の圧縮を図ることが出来た。 また、これにより工期の短縮や交通規制期間の短縮、橋梁通行者への交通抵抗を軽減できたことから事業は効率的に執行できた。</p>				
(4)現状と課題	<p>5年に一度の定期点検結果(道路ストック総点検)の結果を活用し、橋梁の健全度の低下状況を確認しながら修繕の順番を時点修正し、事業を進めていく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。 費用の平準化、長寿命化を目的とした修繕計画に基づく事業であり、遅延なく継続して事業を進めていく必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>長寿命化修繕では橋梁の耐震化を図ることはできない。しかし、東日本大震災、平成28年熊本地震などいつ起こるか分からない大震災に備えるため、別事業である橋梁の耐震化も同時に進める必要がある。 橋梁の耐震化については、落橋防止システム設置事業を実施しているが、事業の効率化を図るため本事業と統合し、「橋梁維持・耐震化事業」として事業を進めていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年 第2回定例会	
	要旨	老朽化した橋梁への対策について	

事務事業名	道路ストック総点検事業			道路公園課計画調整担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6291
予算書名称	道路ストック総点検事業		執行実績報告書ページ	150

1 事業の概要

2012年12月の中央自動車道上下線笹子トンネル内での天井板落下事故を契機に、全国的な道路施設の老朽化が社会問題となった。 この事故を受け、平成25年2月27日付けで国から各地方公共団体等に、老朽化が進む道路ストックの総点検の実施について積極的に行うよう通達があったことを受け、墨田区では、平成26年度から本事業を開始することとなった。	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	継続

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
歩行者、自転車、通行車両	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
計画的な土木施設の安全点検	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
第三者被害を防止すると共に、災害復旧活動などに支障をきたさない	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路(性状、空洞化)、橋梁、道路付属物(街路灯×3回、大型標識、案内標識等、カーブミラー、横断歩道橋)、道路のり面の各種点検の実施(計9種11項目)	項目	目標値		5	4
			実績値		5	4
成果指標 (目的に対する指標)	第三者被害の危険性の減少	項目	目標値		5	4
			実績値		5	4

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

区が管理する道路ストック(総量)は非常に多いため、点検だけでもかなりの事業量となっている。しかし、点検自体が大事なことではなく、点検、修繕計画、修繕実施、結果の検証のPDCAサイクルを確立し、土木施設の維持管理を事後補修ではなく予防保全型へスライドしていく必要がある。
 また、多額な費用が掛るため、国の補助金を積極的に活用していく必要がある。(社会資本整備総合交付金)

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路維持事業費
27年度歳出予算額	41,220	27年度歳出決算額	39,908	27年度執行率	96.8%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	有	無	無	有		47,520
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>事業へのニーズは増大している。区が事業を実施する強い理由がある。事業を休止・中止した場合の影響は大きい。平成26年の道路法の改正により、点検が義務化され、道路事業に伴う国庫補助の採択要件ともなっている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>指標の実績値は向上している。施策目標を達成するための最も効果的な手段である。国が示した点検要領に基づき、全国的に実施されている事業であり、点検結果に基づく維持補修等の事業を実施することで、道路施設の安全性が着実に確保される。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>関連・類似事業との統合は出来ない。事業に係る経費は低減している。受益者負担には該当しない。初期投資の段階の経費的な負担は大きい。点検結果に基づく計画的な維持管理を実施することで、橋梁やその他の道路施設の長寿命化が図られ、長期的な維持管理のコスト縮減が実現できる。</p>				
(4)現状と課題	<p>補修費用の集中や財政負担軽減のため、点検結果に基づく予防保全型の補修工事を今後は行っていかなければならないが、補修費は一般的に高額になるため、安定した財源措置が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。定期点検は道路管理者の責務であり、今後も安全で安心な土木施設の維持管理には欠かせない事業であるため。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>本件調査については、維持管理に係る点検調査であるが、橋梁については、国や都に比べて耐震化が遅れている。また、河川管理者の指導により、2020年までに耐震診断を行わなければならない。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	公共溝渠維持管理費		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	231	誰もが移動しやすい交通手段を確保する	連絡先	03-5608-6295
予算書名称	公共溝渠維持管理費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

暗渠化された箇所については、概ね下水道局に引き継いでいるが区管理の排水管が残っている箇所もある。不法占用物件等が解消され境界が確定し排除の実績が上がった箇所から順次整備を行っている。 また、古くなった舗装等についても、日常の点検等において適宜適切な維持補修等を行っている。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
通行者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
不法占拠物件等が解消された箇所については、舗装工事や排水工事等を実施し、整備を行うとともに、暗渠化された箇所について下水道局に引継ぐように調整	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
整備した公共溝渠においては安全・安心に通行できる道路交通環境を保った	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公共溝渠改修工事件数	件	目標値	10	10	10
			実績値	11	3	8
成果指標 (目的に対する指標)	「交通の利便性が良い」と思う区民の割合 (墨田区住民意識調査より)	%	目標値	69.6	70.8	72.0
			実績値		77.5	79.0

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

維持管理を行う公共溝渠延長に変更はなく、適正な維持管理により、公共溝渠を良好な状態に保つように努めている。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川総務費	
27年度 歳出予算額	10,653	27年度 歳出決算額	8,290	27年度 執行率	77.8%	28年度 歳出 予算額	10,697
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ニーズは横ばい。中止及び休止の影響は大きい。排水路、また通路として重要な役割がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指標は横ばい。各内容に応じて専門業者への工事及び委託により実施しているため有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
類似事業は無い。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への工事及び委託により実施しているため効率性は高い。				
(4)現状と課題	すでに暗渠化しているものについては、公共下水道として移管できるよう下水道局と調整していく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。依然として排水路や通路として重要な役割を持っているため継続的な維持管理を行う必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	依然として排水路や通路として重要な役割を持っているため継続的な維持管理を行う必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		